

第6回 交野市基本構想審議会 議事概要

【日 時】 令和4年6月22日（水）午後3時～午後5時

【場 所】 交野市役所 別館3階 中会議室

【出席者】 委員13名（欠席7名）
事務局7名

【傍聴者】 なし

【議 題】 1. 基本構想素案の修正について
2. 基本計画素案の審議について
3. その他

1. 開会

- 事務局による挨拶。委員20名中13名の出席確認。
- 会長による挨拶と本日の議題の確認。

2. 議題1 基本構想素案の修正について

（事務局）

事務局から以下の内容・資料について説明

- 資料1-1「第5回基本構想審議会における指摘事項への対応について」
- 資料1-2「第5次総合計画基本構想素案（6月22日修正版）」

（会長）

- 説明感謝する。基本構想への質問に対する回答である。基本構想の段階で対応等に質問はあるか。基本計画の冒頭部分についての質疑回答もあるためこちらでも結構である。

（全体）

- （発言・意見なし）

（会長）

- （意見が出ないため）現時点では質問なしと理解した。現時点では基本構想がほぼ確定したという理解をしたい。基本計画の意見が出た際に見直す必要があるれば、その際は対応したい。
- 次は基本計画の素案である。施策1, 2, 3についてご意見いただきたい。

3. 議題2 基本計画素案の審議について

（事務局）

事務局から以下の内容・資料について説明。

- 資料2-1「第1期基本計画素案（6月22日修正版）」
- 資料2-2「政策分野（まちづくりの目標1～3）」のうち「まちづくりの目標1」

（会長）

- 説明感謝する。5つの政策分野のうち1を説明いただいた。細かい指摘で申し訳ないが、最初の「まちづくりの目標1」に関して、子どもがのびのび「と」が入っていない。

- 次のページの政策分野1「子育て」とあり、根拠となる各分野の計画はページの左下に記載している。そのため、これは今回新たに作ったというよりも、分野別計画で作られているものを集約しているイメージで捉えていただければと思う。
- ここで確認だが、政策分野1「子育て」の政策分野における目標は、今回新たに作った文言ではなくて、左下の「交野市子ども・子育て支援事業計画」等の既存計画から抜粋したという理解でよいのか。まず、そこを確認したい。

(事務局)

- 各行政計画を参考にして、丸々コピーではなくて、少し調整やアレンジが入っている部分がある。

(会長)

- 今回、新たにできたというよりは、今の既存のものを集約しながら表現しているということが1つ目である。
- 委員に確認いただきたい点は、次のところである。背景（現状と課題）という記載が並んでいるが、黒丸で始まる箇条書きが5つ並んでいる。これらは現状、これからこうしたい、こうしなければならない・必要であると書いてある箇所になる。これら現状と課題が右ページの施策と対応していなければ、よろしくないと考えている。従って、左ページの課題が右ページのどの施策に当てはまるかがチェックポイントになると思う。
- 先ほど事務局説明があったように、1つの課題が1つの施策にリンクしているとは限らない。2つに分散しているものもあるということをご理解いただいて、抜けがないかということや、大きな枠組みとしてのストーリーや流れをご確認いただきたい。また、課題と施策の順番の整合などを見ていただきたい。
- 右の施策ページの1～4は、順番ではなく、単に分かりやすくする順番付けである。この順番についてのチェックは事務局側でも行う。気になる点や足りない点について、ご指摘いただければと思う。

(委員)

- 3点述べたい。背景と施策のつながりについて指摘があったが、同様に、背景・施策に加えて、進捗確認指標との紐づけをしっかり行った方が良いと思う。おそらく進捗確認指標は、数値として表現することに重きを置いて項目を選ばれていると思うが、どうしても施策と一致させることが難しいと思う。まずは、施策進捗が定性的に確認できることを網羅して、その上で可能な部分は数値で表現する。その方が全体の進捗確認を後で行いやすいと思うため、ご検討いただければと思う。
- 2つ目としては、政策分野3「学校教育」について述べたい。今後3年くらいをかけて、部活の見直し、地域のスポーツとの連携に関して具体的に進んでくると思う。この基本計画が2026年までであれば、それらの変化を想定して、内容に含めていった方が良いと思う。
- 3点目として政策分野4「教育環境」について述べたい。ICT教育に関して、学校設備や学校備品整備は必要だと思うが、併せてそのソフト面、使いこなす教員側の対応という点も一緒にアップデートしていかないと実効性は伴わないと思う。担当が市か府かは詳しくないが、もし市ができる範疇に教員のアップデートのような対応が入るのであれば含めた方が良いと思う。

(会長)

- 各政策分野における指標、KPIがなぜ出てきているのかという話である。年度計画のため、各数値がどんどん変わっていき、経年変化を捉えた進捗管理が必要となる。一定の数値基準を設けて、どれくらい増えていったという話が、施策とリンクするため、この項目で良いのかという指摘である。事務局から説明いただきたい。

(事務局)

- 事務局としても進捗管理指標の設定は非常に難しいと思っている。まず、施策に対応する代表的な事務事業の成果を指標として持ってくるべきだという考えがある。
- 施策と進捗管理指標の1対1の対応関係が取れていない部分も出てきているが、施策に紐づく事務事業の代表的な数値指標をまずは引っ張ってきた。あとは各担当課と意見交換しながら、様々な先進事例も参考にしつつ、今回いただいた意見を参考にして、持ち帰ってアップデートしていきたい。

(会長)

- 分野別計画は、KPIを設定してないものが多いと思う。担当部署で、重点的に取り組まれている事業から恐らく抽出されている。それで一定の説明がつくと思うが、担当課と更に確認いただき指標化いただければと思う。
- あと2つの質問はいかがか。施策分野3「学校教育」で、部活の話等の質問があった。担当課の学校教育で、そのようなクラブ活動や地域づくりがあるか、これは個別内容にも近づく話であるため、事務局が答えにくいのであれば、この学校教育の環境の中で、部活の取り扱いに関して将来的に対応いただけるのかを確認いただいてよろしいか。すぐにここでの回答は難しいと思う。

(事務局)

- 部活の件が重要であるという認識は持っているが、政策分野6の、生涯学習の右側の「スポーツ・文化活動の推進」の中で表現することが適切か否かと悩んでおり、整理し切れていない部分がある。指摘を踏まえ調整を進めていきたい。

(会長)

- 3つ目が教育環境のICT技術である。子供たちは現在モバイルを持っていることが多くなってきて、先生がついていけないみたいなのも確かにある。教員教育、教員研修を充実させていくとかが必要ではないかという意見であった。

(事務局)

- 担当課ではICT教育を進めるための教員研修等を進めていることを我々も認識している。しかし、そこが見えてこないことが確かにある。市としても、教員の能力向上についてはしっかり取り組みたいという思いがあるため、現場と調整しながら、どこかで見えるような形で位置付けたい。

(会長)

- 子供たちへの対応のみならず、それを教える側の、例えば、英語とICTや情報技術は、両方求められており、外国人の英語の先生の登用や、ICT技術に関しては、ネット環境、全部オンライン系でやっているところもある。その辺りの先生方の技術アップ、スキルアップに関する意見で非常に大事な話だと思う。確認いただき、よろしく願いしたい。

(委員)

- 政策分野5「青少年育成」で、「安定的な放課後児童会の運営」で気づいたが、放課後児童会は、共稼ぎ世帯の子供たちの育成にということだが、女性の社会進出、キャリアを持ってもらう社会進出、働き続ける環境に関しても非常に大事だと思う。また、対応するSDGsの5番目「ジェンダー平等」が入っていないのは何故かと思った。ジェンダーの問題ということで、SDGsの5が入っていたら良いと思った。

(会長)

- ジェンダーは非常に意味が広いが、それも含まれるのではという意見である。

(事務局)

- ご指摘の趣旨はもったもである。現場と調整して SDGs の整理に関して精査したい。

(委員)

- 政策分野 1「子育て」に関して、子どもの権利条約では子供の定義は 18 歳までである。例えば先ほど言われたヤングケアラーの問題も含まれてくる。子育てという印象からすると、どうしても小中学生が中心と理解されることが多い。例えば、政策分野 1 の背景の 5 番目の黒丸に「妊娠時から子育て期までの切れ目のない支援体制」とあるが、子育て期は小学生までというイメージがある。やはり、ヤングケアラーのような問題も含め、今は色々な問題があるため、青年期やもしくは子供の定義として 18 歳という年齢を言ってしまうのはどうかと思う。子育て期という表記が限定的に思えるためご検討いただければと思う。実際に乳幼児期から青年期までの切れ目のない支援体制はとても大事だと思う。18 歳もしくはもう少し、例えば児童養護施設であれば 20 歳、22 歳、大学が終わるまでというように範囲が広がっている中、交野市でも連続する支援を視野に入れた政策づくりを考えていただければと思う。これが 1 点目である。
- また、同ページで、色々な形で 1～4 の施策があるが、最近では、例えば外国籍のお子さんであったりとか、発達の問題のあるお子さんであったりとか、とても多様な課題が他市では出てきている。私は、交野市の状況を具体的に把握しているわけではないが、少なくともある地域においては、外国籍、もしくは発達に関して課題が上がってきていると思う。そういった多様な子供の課題に対しての対応という視点がここには見受けられないため、ご検討願いたい。
 - 同ページで 3 点目になるが、進捗確認指標にファミリー・サポート・センター会員活動回数がある。実際にファミサポが今のこの子育て世代の活用の状況に即しているのか。会員数も少なくなっており、利用者数も減っていると思う。これが指標となるのであれば、なかなか子育てを考えるときに数値で表すことができない部分があると思うが、今まで通りの指標ではなくて、もう少し実際の子育ての課題に即した指標として、どのような形の指標が適切かを検討することが必要だと感じた。

(事務局)

- 指摘いただいた点は、現場と記載について調整を進めたい。

(会長)

- 子育てと教育の関連もあり、クロスオーバーしているため、どこに記載するかを担当課と調整いただければと思う。

(委員)

- 政策分野 3「学校教育」の「3. 地域とともにある学校づくりの推進」で、学校と地域が一体化した特色ある教育活動とコミュニティ・スクールを導入とあるが、この場合の地域は各校区の地域という限定的な地域なのか、交野市全体の地域を指すのかが気になった。というのは、現在、地域力の低下、高齢化、共働き家庭の増加という様々な課題がある中で、地域力、地域との連携というところで、実際にそれを進めていく中、交野市全体の市民活動団体や、そういう課題解決に特化した様々な団体の力を借りるのも 1 つではないかと思った。
- また、政策分野 4 の施策で、「1. 学校施設の整備」、「2. 教育環境の充実」、「3. 安全・安心な学校生活の充実」のどこに入るかわからないが、今の学校の課題として、保護者や子供、もしくは先生方が色々な課題に対して相談できる機関の必要性は各学校教育の中で高まっていると思う。環境の整備の中で、相談機能の充実をどこかに入れることをご検討いただきたい。その指標はどうかとすれば、相談窓口、SSW や SSC の活用等が含まれてくると思うため、ご検討いただきたい。

- 最後に政策分野5「青少年育成」に入れて良いのかが少し引っかかるが、放課後児童会のみを記載しているが、居場所ということを見ると、例えばこの交野市で、色々民間でやっている放課後の居場所づくり、子供食堂、色々な形で子供に対する支援をしている団体の活動があると思う。それらとの連携を今後は考えていかなければと思ったため、そこも検討いただければと思う。

(会長)

- 個々の事業に対応する内容であると思う。施策でどこまで書くかについて、施策別にお話いただいている。事務局で書き方を検討いただきたい。

(委員)

- 政策分野1「子育て」で、KPI のところに地域子育て支援センターやファミリー・サポート・センターがあるが、1、2、3、4の施策はどこが担当しているのか文章からは読みにくい。私の解釈では上の1、2、3の施策は、地域子育て支援センターとファミリー・サポート・センターの両方にまたがっていると思う。4の施策は KPI で言うと、妊産婦健診と産後ケア利用にまたがっていると解釈した。施策と下の KPI との関連性が分かりにくく、各施策を市役所のどこの部署が担当しているのかを見えるようにしたら良いと思う。

(会長)

- KPI は合わせ技一本のところがあり、1対1対応ではないことは理解いただけていると思う。しかし、市役所のどの担当課が行うかはなかなか書けない。理由としては、課が変更したら、もう1回これやり直しになり、いつ組織体制が変わるか分からない。
- 現時点では担当課は書けると思うが、この分野は現在の状況を表しており、それをどう集約するかどうかは分からないが、どの課が担当するかは計画期間の12年の間に見直しになる。それまで現在の担当課が存続するかという問題がある。

(委員)

- 課というよりも、例えば上の①の施策、「安全・安心の子育て環境づくり」に関してはファミリー・サポート・センターで対応しますとか、②に関しては子育て支援センターが対応しますということが読めれば良いと思った。

(会長)

- その方が良いが、現実的には難しい。全ての項目を実現するとセンター利用者が増えてくるかもしれないし、KPI に関しては1個1個対応ではないということを示した。KPI 設定は難解な問題であり、対応関係が明確な指標ではないとご理解をいただきたい。

(委員)

- 子育てをしている母親にとっては、例えば1、2、3のような状況で困っている場合、どこへ相談に行ったら良いのかという際に、地域子育て支援センターなのか、それともファミリー・サポート・センターなのか、どちらかと思うだろう。そういうことである。

(会長)

- それは、基本計画の後に作る実施計画で、具体的に事業として対応していく。基本計画をどうやって効率的に進めるのかという課題であり、それは毎年更新するというスタイルになると思う。センターだけではなく、現場の窓口でも良いかもしれないし、相談に行くのには、基本計画を見てではなく、もう1回次の段階で確認して、具体的にどこに相談に行ったら良いかを判断していただくことになると思う。

(委員)

- 分かった。

(委員)

- 分野1「子育て」の目標について述べたい。検討されていると思うが、目標であるため、中身の似た黒丸による文章を2つ設けるのではなくて、工夫していただいて1本に絞ってはどうか。というのは、他の目標は黒丸1つで統一されている。

(会長)

- 具体的な案はあったりするか。

(委員)

- 要は、基本的には安心して子育てができるというまちということなので、上も下もよく似た文章で並びが違うだけのため、どちらを使ってもらっても、そう支障はないかなとは思。目標という意味では1つに絞って欲しいということである。

(会長)

- 承知した。よく見ると単語の並びが違うだけではないかという指摘であり、整理する部分ではあると思うため事務局に検討をお願いしたい。

(委員)

- 進捗確認指標に関して、例えば子育て政策分野であれば、6,489人や1,638件という基準値があるが、あまりにも具体的な数字の羅列が気になる。数字をここまで書く必要があるのかと感じていることが1点目である。少し数字が具体的過ぎて逆にぴんと来ないという感覚がある。
- それともう1つ、児童虐待に関して、虐待件数は現実には上がってきている。現在、本当に社会的な問題としての虐待の減少に関して、数の掌握も大事だが、虐待がこの交野のまちからどのように減っていくかを考えるときに、関連指標が書かれていないため、一度、書けないのか、あるいはどういうことで記載がないのかも機会があれば教えていただきたい。

(会長)

- 調整いただくということをお願いしたい。数値化に関しては去年等の実績値のため、6,489人というのは現状から増やすか減らすかという指標であるため、なかなか使いにくい。市民で子育て中の人が何万人いて、そのうち何割が来ているのかというデータでもない。そういうところがKPIの限界でもある。KPIは曲者であると個人的には思っている。
- 事業評価では、目標値を達成しているかによって評価を行うため、年度でどれくらい上がっているのかを見る指標になると思う。実績値をどう表現するのかについてもご検討いただきたい。

(委員)

- ここに示しても良いのではというもので、交野市の子供医療費助成制度があるが、それが拡充された点が教育分野に入るのではないかと思っている。それともあまり関係がないのか。

(事務局)

- 政策分野1「子育て」の「安全・安心の子育て環境づくり」の1番目の保護者の養育に係る経済的負担の軽減の具体的な事業の1つとしてそのような取組みを扱うという整理である。具体的にそこまで表現を入れるのかという話になる。

(委員)

- 例えば、政策分野1「子育て」で、昨年だったかの市民意識調査では、子育ての方の要望として、子供の遊び場、広場、ボール遊びできる場所がないという声がすごく沢山書かれていたと記憶している。そのような意見が反映されたような表現として、例えば遊び場所を増やすというような表現がはっきり出てきていないように思う。

- そのように市民意識調査の中で、交野市の特徴、現状がどうだったのか、特徴的なニーズはどこにあったのかについてもなるべく反映できるような形にしてはどうか。できないのであれば、何のための意識調査だったのかとなりかねない。各担当課の計画もあると思うが、背景（現状と課題）や施策等に、この間の市民意識調査などで得られたニーズと対応させることも必要ではないのかと思った。

（会長）

- これも縦串と横串がある。縦串で見ると子供の子育てのための場づくりに関して、分野としては教育分野でもあるが、実は場所から考えると公園分野での対応かもしれない。子育て環境で書いて、都市計画の担当課に混ざってくる書きぶりとしたり、色々な世代に対する広場づくりや緑豊かな環境づくりであれば広場づくりと書けると思う。そこは違う施策に書くのであれば、子育てしやすいようにという観点に合うように、そちらで書けばよい。
- 環境整備については、全体を通じてもう1回見ていくが、教育分野や児童福祉、学校教育分野では公園自体は造れない。このため、意見を大切にしながら、公園を実際に造る分野で対応を取って頂けるか検討いただきたい。
- 進行時間の関係で、次の議題に移る。2つ目の目標の説明をお願いしたい。

（事務局）

事務局から以下の内容・資料について説明。

- 資料2-2「政策分野（まちづくりの目標1~3）」のうち「まちづくりの目標2」

（会長）

- お気付きの点があれば、どこからでもお願いしたい。

（委員）

- 回答は求めないため、意見ということで受け止めていただきたい。先ほどから進捗確認指標に関して色々な意見が出ているが、一つ一つを見ると少し違和感を持つところが多い。例えば、手話通訳者・要約筆記者派遣件数等では、色々なスキルを持つ人を増やすことは重要で必要だと思うが、本当に必要な人が必要なときに派遣を受けられるかが人数よりも大事であると思う。それを必要としている人にアンケートを取ることによって、その辺がどれぐらいの状況なのかを調査できると思う。最終的に何を目指しているのかに即した数値に落とし込んだ方がよいと思う。

（会長）

- 担当課でデータを取っているかも含め、現実的に大事な指標は何かというのを担当課と相談して対応いただきたい。

（委員）

- 政策分野8「地域福祉」の「3. 自分らしい暮らしを支える仕組みづくり」で地域生活課題について、「総合的な相談支援体制の充実を図り、包括的に対応する支援体制の整備に取り組みます」とあるが、これはとても必要で、現在人材が非常に少ないと思っている。上の項目にも、人材の育成に関して、例えば自殺対策の計画に基づき、支える人材の育成等に取り組むとあるため、これに対しても人材育成という文言を入れていただければと思う。
- 2つ目。政策分野9「障がい福祉」の3番目に「障がい児福祉の充実」があるが、就学前の子どもの障がいの程度に合わせた療育や支援を実施すると書いてある、私の知り合いから、交野市は就学後になると、障害者のお子さんに対する支援がぐっと狭まり、就学前と就学後の差がとても激しく困っているという声を聞いたことがある。

- わざわざ就学前に限定せずに、例えば、ダウン症のお子さんに関しては、かなり前までは成人になることが確率的に少ないというデータがあったが、現在はそういったお子さんも医療の発達で中高齢まで生育されている、やはり障害をお持ちのお子さん方は、就学前だけではなく、ずっと続く課題であると思うため、就学前という文言をあえてここに入れる点に引っ掛かりを感じた。子供たちという文言を外してずっと見守る、ずっと支援する必要性を明記していただければと思う。
- 3つ目として政策分野 10「高齢者福祉」の「5. 高齢者の生きがいづくり支援」で、高齢者の居場所づくりや生きがいづくり、社会参加が、実際にフレイルなどの予防にすごく役に立っているということは数値として表れている。ただ、老人クラブ活動と限定するのではなく、現在は市民活動でも高齢者の方々は様々なところで活躍している。シルバー人材センターも含むが、わざわざ老人クラブ活動を支援という限定した形ではなく、もっと高齢者の方が活躍できる場を増やす、それを支援する場づくりを支援したり、高齢者が参加できるよういろいろな体制の整備をするという形で検討いただければと思う。

(会長)

- 老人クラブの記載は、現在の事業をそのまま現場から持ってきているのではないか。基本計画レベルであれば、これを年長者のようなキーワードにした上で、実際の事業的としては老人クラブへの補助が必要であれば、もう少しまとめた表現にしておいた方が、今後の色々な事業への対応が可能になる。そのような視点で、事業名をそのまま挙げていないかという確認を1回取っていただいてよろしいか。

(委員)

- 全体を通じて、指導員の高齢化、例えば放課後児童会、スポーツであればスポーツや文化活動の指導者の減少や技術継承、あるいは認知症のサポーターを増やす、コーディネーターを養成するという行政側が行うことが沢山書いている。しかし、先に委員が言われたように、例えば私はパナソニックの松愛会に所属しているが、OBの方がそういう大きな団体に呼び掛けてみてご協力を仰ぐ、あるいは老人クラブの方へご協力を仰ぐとかして、色々な市民団体の人材になっていただけないかと思う。その意味での啓発、養成活動は行政として行い、OBでそのような方はいないかと手を借りるのも1つの方法だと思うため、この辺に書いてくのはいかがか。全てを行政がやるように書いているが、行政側も大変ではないかと感じた。

(会長)

- 協働の立場では、非常に大事な話である。行政や役所として放っておいて良いのかもがあるが、この話題は全部に関わる話なので、どのように書いていくかということになる。いわゆる担い手育成や人材育成というキーワードになってくると思う。それは、ノウハウのあるご協力体制を整えると同時に、その次の世代をどうやって育てていくのかということ、これも全ての分野に掛かってくるかと思うため、事務局で検討いただきたい。

(委員)

- 政策分野6の生涯学習の部分で、施策1「スポーツ・文化活動の推進」黒丸3つ目に、育成を進める、拡充を図る、拡大を図るとあるが、コロナの影響により機会損失が起きている。スポーツは難しいかと思うが、今後プラスの内容だけでなく、マイナスをいかに減らしていけるか ICT 等を活用しながら機会損失の減少に努めますという文言があっても良いと思った。

(会長)

- 前向きの項目が書いてあって、ゼロベースをどれだけ狙うかというのに加えて、減少を防ぐという話である。2000年を越えてから成熟化社会に変わってきており、どんどんいけいけという時代では

ないので、ある一定我慢しながら、環境施策や福祉施策や、いろんな施策っていうのは対応しなければならぬ点はもちろんだが、コロナという観点もある。

- 減少を防ぎます、減少するのは事実であることを認めてしまうということも、行政的に良いのかという判断もあるため、書きぶりだと思う。ご検討いただくということをお願いしたい。

(委員)

- 政策分野 11「3. の男女共同参画社会の推進」の2つ目で、男女共同参画社会の形成に向けた取り組みの一つとして、女性の活躍を支援する交野市女性活躍推進優良事業者表彰を継続して、女性活躍の推進に取り組みますとあるが、限定的な取り組みではないかを感じる。
- 女性活躍の推進に関して、広く施策分野のほうに入れ込むのであれば、現に女性相談、つまり女性が働くに当たっての色々な課題、悩み、会社に対する法律を知る機会といった相談体制の充実が女性の活躍推進についてより有益なのではないかと感じた。

(会長)

- それらの事項に取り組む必要があることはアナウンスしておく必要があると思う。担当課で考えていないのかという点もあるため、個別事業に関わる質問に対しては、黒丸のどこかに含まれていないかを担当課で確認いただくということによろしいか。ここに記載があるという話になるかもしれない。

(委員)

- 私も政策分野 11 の男女共同参画社会の推進に関して、表彰を今後も続けるという狭い視点だけでいいのかと思う。これは担当課が行っている施策を並べているだけだと思っている。もっと広い視野に立った施策をやっていないと、実現できないと思う。

(会長)

- 確認が必要だと思う。具体的に固有名詞が出てきたり、固有の施策名や施設名が書いている箇所は、要注意である。現在の事業名を掲載するとそれに対応することになり、それができないと実現できないという話になる。
- もっと大きな視点で女性の社会進出のために、こういうことをやると書いて、具体的に事業につながる内容になっているかを担当課と確認をお願いしたい。施策や分野に出てくる黒丸同士に温度差がある気がする。濃く書いてある箇所、ピンポイントに書いてある箇所、割と漠と描いている箇所がある。それらの擦り合わせをお願いしたい。
- この2つ目の目標まで意見をいただいた。担当課の対応や事務局判断を経て、次回は再検討いただいた結果のご報告と、他の3施策について取り組んでまいりたい。

(事務局)

- 本日もありがとうございました。

4. 議題3. その他

(事務局)

- 次回の議題は基本目標3～5であること説明。

5. 閉会

- 会長による閉会の挨拶。